

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大阪府立北摂つばさ高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} ◆ 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒567-0848

大阪府茨木市玉島台2-15

E-mail snjfji@leto.eonet.ne.jp

Website http://www.osaka-c.ed.jp/hokusetsutsubasa/

幼児児童生徒数 男子 329 名 女子 505 名 合計 834 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 19 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（803字＋写真4枚）※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「自分がされて嬉しいことを人にする生徒、自分がされて嫌なことを人にしない生徒」を目標生徒像に、ESDを学校・地域の持続可能な関係づくりと捉え、ESDの実践を通して生徒の社会参加の力の育成を目標とした。具体的には、震災復興ボランティア、地域貢献活動、政治的教養の育成を柱に、①気仙沼高校との交流、②茨木市内での社会貢献、③いじめ防止の推進、④社会的な興味・関心を高める学習を行った。

① 気仙沼高校との交流

茨木市駅前募金を年間 6 回実施。

大震災発生以来の第 9 回目気仙沼ボランティア 20170714-18 に 28 名参加。

気仙沼高校生徒会の要請で 20171103-04 に 11 名を受け入れ交流した。

年度末に気仙沼高、気仙沼西高、登米高の野球部を茨木市に招待、北摂つばさ高、茨木高、春日丘高、金光大阪高との練習試合を実施。高校生交流によって被災地の元気に貢献する、と 140 名超の生徒が準備中。

② 茨木市内での社会貢献

茨木市教育委員会主催の小学生キャンプ、青少年音楽イベント、茨木神社主催大茶会、茨木市男女共生センター主催市民向け講座、玉島地区、白川地区自治会の夏祭り、葦原地区の小学生スポーツ大会に高校生スタッフとして参加。ユネスコ協会 ESD パスポート体験発表会への参加を全校生徒に呼びかけ、28 名が参加、他校の取り組みに学んだ。

③ いじめ防止の推進

20170430、1109 の 2 回、全校ユネスコ研修を実施した。内容は(1)いじめ防

止の学校方針の確認、(2)ユネスコ協会 ESD パスポートの個人別ボラン数の確認、(3)推奨すべき社会貢献活動の紹介と勧奨。以上を通じて各自が「自分がされて嬉しいことを人にする」ことを目指す。

④ 社会的な興味と関心を高める学習

社会的興味・関心を高めるべく(2016年度以降、政治的教養の育成に関連させつつ)、全校生徒が年間を通じて時事問題学習をしつつ、年4回、ニュース検定模試に取り組んでいる。



①気仙沼高、北摂つばさ高、松原高、春日丘高の生徒41名で神戸の震災遺構視察 20171103



②2日間で66名が参加した白川地区の夏祭りの焼き鳥屋台 20170806



③全校ユネスコ研修 ESD 国際交流プログラムインドネシア派遣報告をする3年 Chihiroさん 20170430 パノラマ写真



④ニュース検定2級合格のNatsuさん

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2, 2-1に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	◆ 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育(GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	◆ 17. その他(東日本大震災復興支援活動)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	◆ 4. コミュニケーションを行う力
◆ 5. 他者と協力する態度	◆ 6. つながりを尊重する態度
◆ 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ニュース検定協会 月一時事サポート (WEB)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（286字）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動はいじめ防止推進方針に位置づけている。本校いじめ防止推進方針は、その目標生徒に「自分がされて嬉しいことを人にする生徒、自分がされて嫌なことを人にしない生徒」を設定している。自分がされて嬉しいことを人にする、とは、人に対して親切にすることである。その一部が社会貢献であり、その一部が震災復興支援活動である。親切行動が生徒の行動原理になれば、自分がされて嫌なことを人にしない、ということは生徒にとっては自然の原理として定着するはずである。この因果関係を生徒全体に染み込ませるように定着させることを企図しているのが本校いじめ防止推進方針である。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（183字）

※チェック事項 1-4 に対応

本校はユネスコスクールコーディネータを生徒指導部に位置づけているところに大きな特徴がある。また各学年ユネスコ担当者を配置している。本校ではユネスコ協会 ESD パスポートを生徒手帳に組み込んでおり、全校生徒が日常的に同パスポートを携行している。年間10回程度、ボランティア情報紙「情けは人の為ならず」を発行して、地域ボランティアの活動などを周知し、参加者を募集している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（202字）

※チェック事項 1-5 に対応

本校では、目標生徒「自分がされて嬉しいことを人にする生徒、自分がされて嫌なことを人にしない生徒」の実現にむけ、年2回のユネスコ集会に於ける生徒自己評価により、教育活動の効果を測定している。

「自分がされて嬉しいことを人にする」「しない」と「自分がされて嫌なことを人にしない」「する」を直行する座標として座標軸を作り、4象限を設定する。そして生徒に「自分はどこに位置しているか」を自己評価してもらうのである。

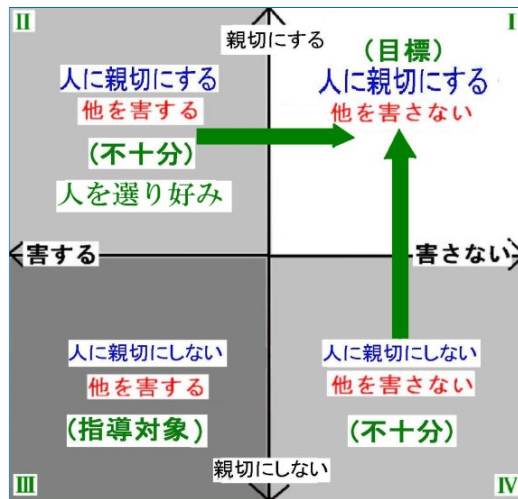


表1 自己評価の為の座標軸

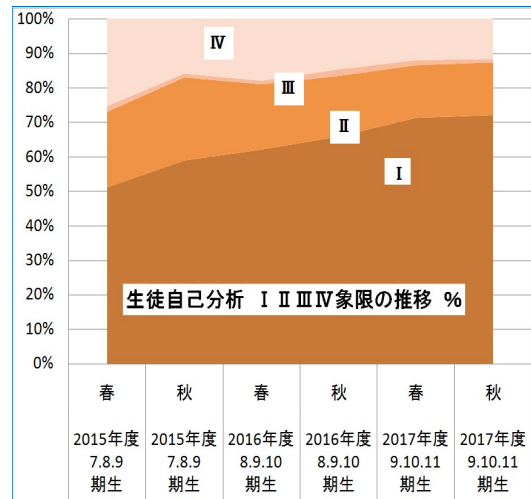


表2 生徒自己分析の推移

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(196字) ※チェック事項 2-2 に対応

大阪府ユネスコ連絡協議会主幹の日ユ協連事業であるユネスコ協会 ESD パスポートの体験発表会と報告書で活動内容を発信している。
2013年度より取り組みがスタートし、2014年度は関西国際交流団体連合により冊子化され、2015.16.17年度は大阪府ユネスコ連絡協議会の編集で1,500部が発行されており、国会図書館にも寄贈されている。
配布による認知が広がっているが、配布方法を更に工夫改善したい。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(208字) ※チェック事項 2-3 に対応

がんばろう！つばさネットワーク、茨木市玉島地区・水尾地区連合・白川地区自治会、葦原地区自主防災会、茨木市自治会連合会、茨木市スポーツ少年団野球部会、茨木市内の全郵便局、社会福祉法人ぽぽんがぽん、茨木市市民活動センター、玉木電気工業株式会社、茨木商工会議所、茨木市商業団体連合会、茨木市、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、大阪府ユネスコ連絡協議会、サッポロホールディングス、東急スポーツオアシス・東急不動産、キンキ寝具

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（100字）

※チェック事項 2-4 に対応

大阪府ユネスコ連絡協議会主幹の日ユ協連事業であるユネスコ協会 ESD パ
スポートの実践校である15校が連携している。
また、気仙沼高校と相互の訪問で交流している。
大阪府のASP ネットワークにも参加している。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調した
い）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地
域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（195字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

つばさ高では「自分がされて嬉しいことを人にする」行動が確認・促進さ
れるにつれ、周りに「自分がされて嫌なことをしない」のは当たり前になっ
ていった。周りの方々に対する感謝や思いやりは振る舞いの変容を促進し、
次第に学校内外の変容を促進した。

生徒間ストレスの要因が大きく取り除かれ、学校内は安心・安全の場所にな
った。社会貢献活動に熱心な学校、マナーの良い学校、と社会的評価もい
ただけるようになった。

(3) 平成30年度の活動計画（386字）

がんばろう！つばさネットワークの活動が、気仙沼現地ボランティアが
10回目となるのを機に活動ステージを一段階引き上げる。これに呼応する。

内容は東日本大震災の被災地復興支援活動を SDGs の推進の一環に位置
づけなおす。世界各地で震災・津波以外の天変地異が多発しており、その
被害はどれも多くの方の生命・財産を一瞬にして奪うものとなっている。

それらの危機を低減させる人類の生き残り戦略として国連 SDGs が提唱
されており、その学習を進めるとともに、現実を学ぶ一環として東北への
ボランティアを継続するのである。ESD のパラダイムシフトを図る。

そのことが誰にも理解できるよう NY 国連 SDGs 研修を企画準備中である。

2018年7月13-17日 第10回気仙沼現地ボランティア

2018年8月4-12日 第1回NY国連SDGs研修

2019年3月23-25日 第8回被災地からの高校生招待